

宗内寺院紹介 65

群馬教区伊勢崎部

丘林山浄土院 華藏寺



①



④



②



③



⑤

①本堂正面 ②勅使門(赤門) ③傳益瑤画 ④不動明王 ⑤本尊(秘仏)

群馬教区伊勢崎部

丘林山浄土院 華藏寺

住 所 / 〒372-0003 伊勢崎市華藏寺町6番地1

電話番号 / 0270-26-2370

当山は、第五十六代清和天皇の時代、貞観十四年(八七二年)、玉体安穩の発願により、鎮護国家の道場として、のちの比叡山第五世天台座主「智證大師円珍上人」が東国巡錫の折りにこの地を選び伽藍を創建し、「丘林山浄土院華藏寺」と号し、末寺十五カ寺を有した古刹大寺であった。本尊は釈迦牟尼如来、脇侍は文殊菩薩、普賢菩薩の釈迦三尊(伝運慶作)である。創建当時は現在地より一町ほど東方であった。その後三百年にわたり荒廃してしまつた寺を文治年間(一一八五―一一九〇年)世良田山長楽寺の栄朝禪師に願つて寺院を修復し、建久年間(一一九〇―一一九九年)に旧観に復したと言われる。よつて栄朝禪師を中興の師と仰ぐ。またそれぞれ台密と禪の兼宗であつたのを、寛永年間(一六二四―一六四四年)に至り、了翁が天台宗に改めた。現在の本堂はこのときのものである。この祐淳の師匠である祐仙和尚の「祐」を引き継ぎ現任職まで連綿として続いている系列を祐仙系法類会と呼び、現在その人数は百を超え、県内外に問わずその名を響かせている。昭和四年、浅草寺貫主大森亮順大僧正の開眼法要により、浅草寺の聖観世音菩薩のご分身を安置し、毎月十七、十八日を縁日とする。また、お不動様の縁日は二十八日とし、護摩祈願も行っている。堂内外陣の欄間に刻まれている二十五菩薩や十六羅漢は再建当時のままである。襖絵の水墨画は中国の画家、傅益瑤(フー・イー・ヤオ)当時四十二歳の作である。前庭の「金木犀」は、樹齢四百年。秋の開花期には、その香りが一里四方に及ぶといわれた。近県ではまれなる老樹であるが、昭和十二年六月、文部省より国の天然記念物に指定されるが、昭和四十一年九月の台風により倒伏し、昔日の面影はない。寺院名のごとく華の蔵を思わせる四季の花、桜やつつじ、萩は寺の庭園と共に名所としてその名高く、浪漫の旅人もきびずを接し、この勝景を訪ねる者も多い。